

## 利根川・渡良瀬川流域における群馬県東部の外来種ヌマガエルの分布

山崎陽平（日本蛇族学術研究所）

### はじめに

ヌマガエルの国内分布は、本州中部以西・四国・九州・南西諸島であった。しかし、近年は本来分布しないはずである関東周辺でも発見されるようになり、分布が広がっていることが知られている。関東のヌマガエルの侵入経路は、はっきりとわかってないものの、人為的に運び込まれたものと考えられている（菊池・松本, 2007）。群馬県太田市周辺のヌマガエルの記録は、森口ら（2004）によって太田市新田・伊勢崎市境での報告があり 10 年以上前から生息が確認されている。また隣県（栃木県足利市・埼玉県深谷市など）でも、すでに分布が確認されている（菊池・松本, 2007; 林・木村, 2016）。本研究では、太田市・伊勢崎市を中心とした群馬県東部でのヌマガエルの分布状況を調べた。

### 調査方法

調査地域は、群馬県館林市・太田市・伊勢崎市・桐生市・みどり市・前橋市・大泉町・邑楽町・千代田町、埼玉県深谷市、栃木県足利市とした。調査はこれらの地域の利根川・渡良瀬川流域にある水田・池・用水路などの水場とその周辺環境とした（全 79 地点）。各地点では踏査を行い、ヌマガエルの分布の有無を記録した。ヌマガエルを発見できない場合でも、1 地点 15 分以上調査を行った。調査期間は、2015 年 8 月 19 日から 2016 年 11 月 17 日であった。



ヌマガエル (*Fejervarya kawamurai*)

体長：約 3~5 cm

色・模様：茶色やクリーム色をしており、背中線の有る個体と無い個体が存在する

### 結果

ヌマガエルは、全 79 地点中 52 地点で生息が確認された。群馬県の平野部には広く分布しており、館林市・太田市・伊勢崎市・前橋市・桐生市・邑楽町・千代田町・大泉町で生息が確認されたものの、みどり市では発見できなかった。太田市の分布は、平野部のみに限られており、八王子丘陵・金山丘陵周辺での生息は確認されなかった。伊勢崎市東部の平野には、南から北に至るまで、利根川支流河川沿いに広く分布していた。太田市・伊勢

崎市・桐生市・前橋市の利根川支流における分布は連続していた。渡良瀬川流域である桐生市（東）では生息が確認されなかった（※桐生市は、みどり市を間にはさみ東西に分かれている）。桐生市（西）の平野部では、生息が確認されたものの、山地での生息は確認できなかった。桐生市（東）から約2 km東に位置する栃木県足利市（渡良瀬川流域）ではヌマガエルの生息が確認された。

#### まとめ・展望

利根川支流でのヌマガエルの分布は連続しており、太田市・伊勢崎市・桐生市（西）・前橋市の分布は、利根川支流を上流方向へ移動し、分布を拡大しているものと考えられる。渡良瀬川流域では、足利市で生息が確認されたものの、桐生市（東）では確認できなかったことから、桐生市（東）にはまだ侵入していないものと考えられる。本調査において、丘陵地・山地での生息は確認されていない。今後、このような環境にもヌマガエル侵入するのか、また分布の拡大速度が変化するのか調べる必要があるだろう。

#### キーワード

ヌマガエル 外来種 利根川 渡良瀬川

#### 引用文献

- 菊池久雄, 松本充夫 (2007). 埼玉県北部及び隣接地域におけるヌマガエル *Rana (Limnonectes) limnocharis limnocharis* の分布と人為的移入. 埼玉県立自然史博物館研究報告, 1, 51-56.
- 林光武, 木村有紀 (2016). ヌマガエルの分布拡大と在来カエル類の生息状況. 爬虫両棲類学会報, 2016(1), 91-92.
- 森口一, 林光武, 木村有紀, 富岡克寛, 小林敏男 (2004). 群馬県境町と新田町におけるヌマガエルの分布確認. 爬虫両棲類学会報, 2004(2), 119-120.